

栄光のスポーツ展 開催記念 ～その時、人は伝説になる～ オリンピックは語る

主催：子どもの館

「子どもの館」主催による、「今だから話せる、メダルに挑戦した日々」と題した、地元所縁のオリンピックに出場した当時の選手によるトークショーが、7月21日、北九州市八幡西区の「市立子どもの館(館長：カズ山本氏)」で開催された。

トークショーには、君原健二氏(元新日鐵陸上部 マラソンランナー メキシコオリンピック銀メダル)、佐藤好助氏(元新日鐵水泳部 バタフライ 東京プレ五輪金メダル 東京オリンピック出場 440 ヤードメドレーリレー(1962 世界新記録)、横山(現姓：西川)樹理氏(元ユニチカ女子バレーボール モントリオールオリンピック金メダル)、吉無田春男氏(元新日鐵水泳部 400m 自由 ユニバーシアード金メダル ローマ・東京オリンピック出場)ら 4 人による



4氏のトークを真剣に聞き入る市民の皆さん
子どもの館「子どもホール」にて

トークショーが行われた。

コーディネーターを務めた佐藤氏は、一子どもの体力低下とその対策について「親子で様々なスポーツやレクリエーションゲームを体験し、日々の生活に生かし、親子で“体力づくり”や“親子のふれあい時間を増やす”このことで家族の絆が深まる」と語った。一将来を担う子どもたちに、スポーツを通して望むこと「いつまでも夢を追い続けること。それには、聖域のない、妥協がない、強い意志を持ってほしい。スポーツを通して人に感動を与え、周囲には感謝の気持ちを(好きな言葉：克己復礼)。一と語った。

と語った。

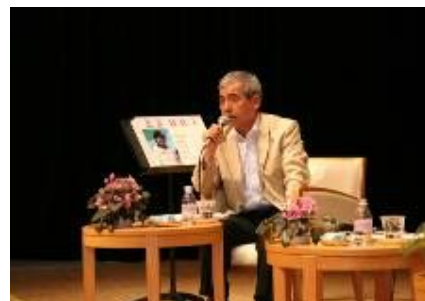
一オリンピックの好きな言葉一

君原氏は、「人生は夢や希望

を持って充実した人生だと思っている。そして、私は人生には生きている限りゴールがないのではないかと感じている。そのためには努力が必要であり、その努力が一番自分にとって頼りになるものであるから“努力を糧に、人生無限。また、8年後のボストンマラソンで完走したい」と語った。

横山氏は、「学生の頃、監督に言われたことで“まず、人に勝つより自分に勝て”弱気にならないのも自分の気持ちしだい。自分が強くなないと相手に勝てない。一己に勝て一」という言葉が好きな言葉であると語った。

吉無田氏は、「“努力は天才に勝る”天才も最初から天才ではない。努力して努力して天才が出てくるもので、その天才も努力しないと目標の達成率は低いものになる」と語った。



「親子のふれあいの時間を増やすべし」と語った
佐藤氏



「人生はゴール無限である」と語った
君原氏



「自分に勝て」と語った 横山氏



「努力は天才に勝る」と語った
吉無田氏